

切り身が泳ぐ？

「最近の子は、鮭が切り身の姿で泳いでいる」と思っている。そんな話を聞いたことがあります。ついにそんな時代になったのか？と思いつつも、自分の身近なモノで考えてみると、木製品や革製品なども、意外と生きている（加工される前の）姿を想像できるものって少ないのではないのでしょうか。本物に似せた擬木や木目調のプリント合板、フェイクレザーなど似せて作られたものもあるので、尚更わかりにくい世の中かもしれません。

革になる前は皮

あなたは革製品を持っていますか？その素材が何革かは知っているかもしれませんが。でも、その素材の事をどこまで知っているでしょう

「素材を知ることと命とつながる」

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 新津 裕

か。果たして本当にイメージしている姿でしょうか。

アカデミーでは実習で捕獲した鹿・猪を学内の施設で解体をするこかげで、その解体・剥皮された後の皮を使用して有志の学生と皮なめしを行うことが出来るようになります。

鞣（なめ）し

通常、動物の皮はそのまま利用しようとしても、腐敗し易く乾燥すると固くなってしまうという欠点があります。そこで、古代から人類は様々な工夫を凝らして皮を革製品として加工する技術確立してきました。動物の種類や用途によって薬品を使い分けますが、薬品を使用するのは廃液処理の関係で個人が行うに

はハードルの高い作業。しかし、身近なスーパードなど手に入るものでも皮を鞣すことが可能です。※鞣しを行われた皮を革と呼びます。

命に触れる

初めて野生動物の捕獲に立ち会う学生には、非常に大きな衝撃があるかと思えます。

「可愛い」と遠くから見ただけの存在だった野生動物が目の前で対峙する獲物となり、躍動していた命が目の前で静かに横たわっていく。

解体が進むと動物から素材へと変化していきます。剥皮した皮を1ヶ月近くかけて自分の手で革に変化させる過程の体験。その過程の中では様々な発見があります。身体の一部によって異なる皮の厚さ・皮に残された傷跡。生きていた素材だからこ



学生が自ら鞣したシカの毛皮

そ、よく見れば様々な痕跡（歴史）が残されているのです。すると、不思議と徐々に愛着が湧いてきます。お金を出して買ったものなら、傷があれば返品交換してしまうかもしれませんが。

買ったモノと自分が関係したモノ、同じ素材でも関わり方が変わると見え方が変化してくるなんて面白いですね。

あなたの身近な素材にはどんなストーリーが隠されていますか？